

学校だより

臨時号



TEL:075-962-2311 FAX:075-962-2312

URL:<https://www.town.shimamoto.lg.jp/site/kosodate/16158.html>

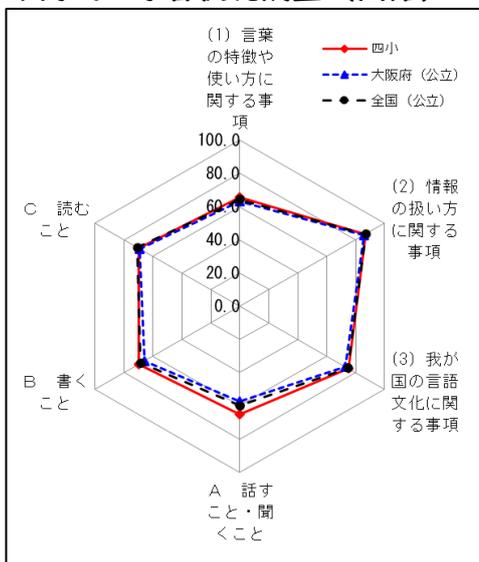
四小ホームページ

四小ブログ

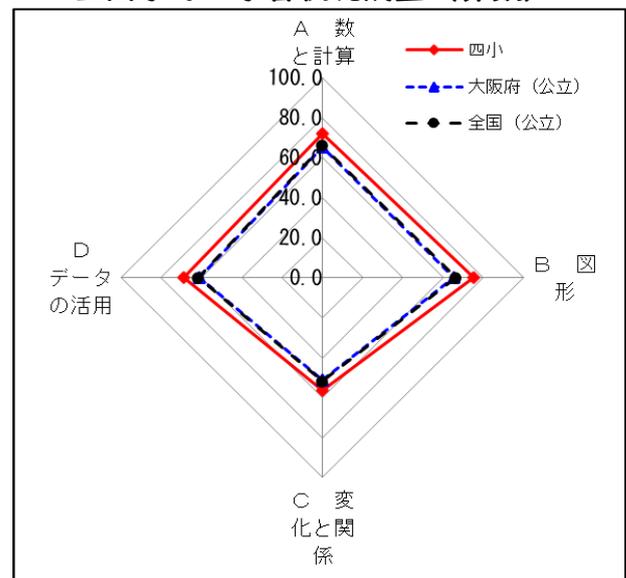
4月に6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」、5・6年生を対象に「すくすくウォッチ（大阪府学力テスト）」を実施いたしました。それらの結果について教職員で分析を行い、結果から見える成果と課題を明らかにしました。臨時号として、その結果分析についてと、学校の取組み（いじめに対する取組み・読書・キャリア教育・食教育）についてをお知らせします。

～全国学力・学習状況調査、すくすくウォッチについて～

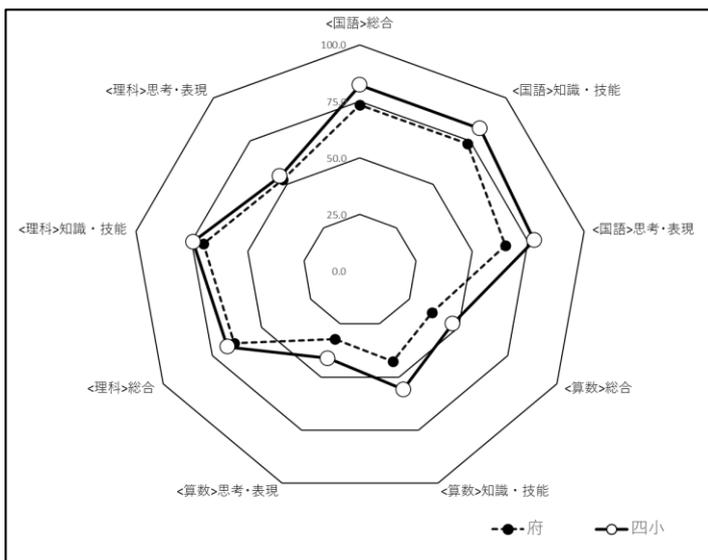
全国学力・学習状況調査（国語）



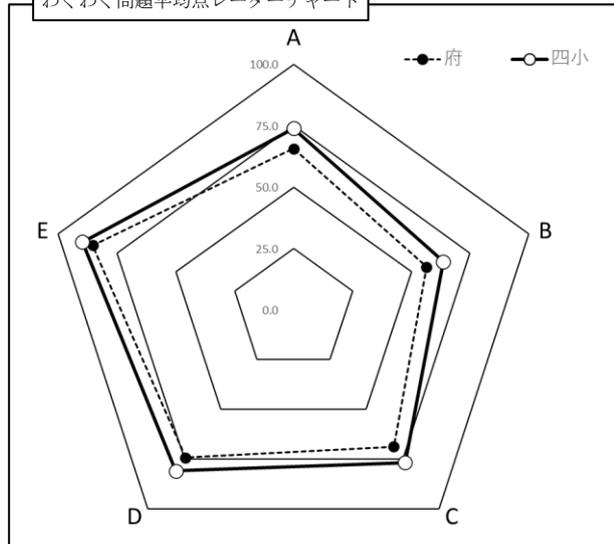
全国学力・学習状況調査（算数）



すくすくウォッチ（大阪府学力テスト）



わくわく問題平均点レーダーチャート



- A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。
- B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。
- C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。
- D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。
- E 興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える。

結果からみる成果と課題について

総合的にみて、全国学力・学習状況調査は国語・算数ともに大阪府平均、全国平均を上回っていました。すくすくウォッチ（大阪府学力テスト）も、総合的な正答率は国語・算数・理科・わくわく問題とすべてのテストで大阪府平均を上回っていました。

知識・技能に関して、大阪府平均、全国平均を大きく上回る問題が多く見られ、どの教科においても基礎的な問題での正答率が高く、授業や家庭学習の中で、基礎学力の定着がはかられていると考えられます。

思考力・判断力・表現力に関して、全国平均を下回る問題もあったものの、国語の「書くこと」など、大きく大阪府平均・全国平均を上回る問題も見られました。今後も本校の研究テーマである「伝え合う、聞き合う中で考えを深められる児童の育成」をめざし、知識・技能を活用し、自分の考えやその理由を説明する時間を確保する授業などの取組みを進めていきます。

【国語科】

- ◎話し言葉と書き言葉の違いに気付く問題や、思考・判断・表現の力をはかる書くことの問題の正答率が高かったです。本校が「伝え合う、聞き合う中で考えを深められる児童の育成」をテーマに国語科の授業づくりに学校全体で取り組んでいる成果が表れています。
- ◎アンケートでは、「課題の解決に向けて自分で考え取り組んでいる」や「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめている」といった質問の肯定的回答が、全国平均や大阪府平均を大きく上回っていました。課題解決に向けて、子どもが自分で考える習慣がついていると考えられます。
- アンケートで、「解答時間は十分だったか」という問いに対し、4割以上の児童が「足りなかった」と回答しています。実際に、問題の後半になるにつれて、無回答率があがっていました。じっくりと読み解こうと考える習慣がついていますが、テストに取り組む際には、時間配分を考慮すること、全ての問題に目を通しテストの見直しを持つことなど、テストの取り組み方についての配慮が必要だと感じています。

【算数科】

- ◎図形の領域において、全ての設問に対して正答率が大阪府平均・全国平均より高かったです。昨年度も同様であり、四小の強みといえます。図形については掲示物やICTを活用した視覚からの学びに学校全体で取り組んでいます。組織的に系統的な指導に取り組んできている成果が見られました。
- 「データの活用」に関する問題の正答率が低かったです。図、表が組み合わさった問題で、データを取り出して落ちや重なりがないように分類整理したり、数直線やテープ図が表すものが何なのかを説明したりすることに課題があります。理解したことを自分の言葉でまとめる経験を積み重ねられるように取り組んでいきます。

【理科】

- ◎短答式の問題や知識・技能を問う問題の正答率が高く、基礎的な知識の定着がみられます。
- 「地球自体が一つの磁石で北がS極になっている」「湯気が蒸発して、水蒸気になったから湯気が消えた」といった理由を記述する問題の解答率や正答率が低かったです。知識・技能の習得だけでなく、なぜそうなるのかを子どもがしっかり考える授業づくりに努めていきます。

【わくわく問題】

- ◎「興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える」問題が昨年度に引き続き、高い正答率でした。普段から自主学習の宿題の中で調べ学習をしたり、授業の中でペアやグループで交流をしたりすることを学校全体で取り組んできた成果だと思われます。
- 一方で、プログラミング的思考が問われた問題など、資料と文章を関連付けたり、それをもとに論理的に考えたりする問題での正答率は低い傾向にあります。資料を正しく読み取る力を育むために、資料の見方を知ったり、どの教科においても資料をよく読み取ったりする時間を授業で設けていくことが大切だと考えています。

上記の結果とアンケートの結果から

基礎的な学力の定着や、自分の思いを伝える力が育っていることが成果として表れています。「伝え合う、聞き合う中で考えを深められる児童の育成」という研究テーマで、児童が互いに関わりながら、学びを深めていく取組みを今後も継続していきます。

～いじめに対する取組みについて～

今年度も半分以上が過ぎ、子どもたち同士の関わる機会も増え、関係性ができることで仲良くなったり、時にはトラブルになったりしながら、関わりの中で、子どもたちは日々成長しています。

その中で、子どもがいやな思いをすることもあります。学校ではそうした子どもたちの思いを素早くキャッチし、組織的に対応しています。

1学期に各クラスで活用した島本町教育委員会から発行している「いじめリーフレット(右参照)」にあるように、「これぐらいのことも…」「こんな小さなことで…」ともしかしたら思われるようなこともあるかもしれませんが、学校では小さなことでもいじめとして認知し、早期対応・組織対応をおこなっています。

毎週火曜日に実施している「いじめ等対策会議」をはじめ、生活指導担当者を中心にチームとしていじめに対応しており、子どもたちが他者との関わりの中で『違いを理解し自他を尊重する子ども』を目指しています。

「いじめ」の小さな兆しや火種を見逃さぬようにアンテナの感度をいつも高めるため、「いじめの無い学校」ではなく、「いじめを見逃さない学校」であり続けるため、これからも取組みを進めていきます。

～読書に係る取組みについて～

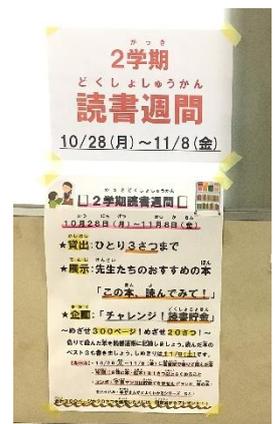
読書は読解力や知識が身に付いたり、集中力が高まったりするなどの効果があります。子どもたちが楽しんで読書をしたり、幅広く読書をしたり、進んで読書をしたりできるように、学校では様々な取組みを進めています。

① 学校図書館の利用

学校図書館には図書館専任職員として津村先生がいつもいます。週に1度、授業で学校図書館を利用し、本の読み聞かせをしたり、本の紹介をしたりしています。また、休み時間も開放し、子どもたちが本を読んだり借りたりできる環境が整っています。

② 読書週間

学期に1度、読書週間を実施しています。(2学期は10月28日～11月8日) 読書週間中は、図書ボランティアの「このゆびとまれ」さんによる読み聞かせがあったり、借りられる本の冊数が増えたり、いろいろな企画を実施したりしています。



③ 子どもたちによる本の紹介

読書週間のイベントでおすすめの本を紹介する「どくしょの木」をつくったり、授業の中でビブリオバトルに取り組んだりするなど、子どもたちが、読んだ本を他の人に紹介する活動もしています。読書感想文にも今年は6年生全員が取り組むなど、インプットが中心になりがちな読書ですが、アウトプットにも取り組んでいます。



これらの行為は いじめ になります!

<p>1 からかたり、人がいやがるようなことを言ったりする。</p>	<p>2 仲間はづれやむしをする。</p>	<p>3 軽くぶつかったり、遊ぶふりをしてたたいたりする。</p>
<p>4 ひどくぶつたり、けつたりする。</p>	<p>5 ものやお金を無理にわたすように言う。</p>	<p>6 ものをかくしたり、こわしたり、すてたりする。</p>
<p>7 人がいやがることやはずかしいと思うこと、きけんことをする。</p>	<p>8 パソコンやケータイ・スマホで悪口を言う。人がいやな気持ちになることをする。</p>	<p>9 うそやうわさをながす。</p>

島本町教育委員会
島本町小・中学校生活指導研究協議会



～キャリア教育について～

子どもたち一人ひとりの将来的な社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる力を育み、キャリアの発達を促す教育を「キャリア教育」といいます。

自分の役割を果たしたり、その価値に気付いたり、自分と社会との関わりを見いだしたりする機会を多く設け、子どもたちが社会との関わりや自分の生き方について考え、世界が広がるようにキャリア教育に取り組んでいます。

① キャリア・パスポート

全国的な取組として、本校でも全学年で実施している「キャリア・パスポート」。毎年、今の自分について考え、自分をふり返り、保護者の方にコメントももらいながら自己形成に向けての一つとして取り組んでいます。

② 人との出会い

社会とのつながりや自分の生き方を考える機会として、様々な大人に出会える機会を多く設けています。教科の学習とも関連させながら、地域の方からアスリートなどの有名な方まで、いろいろな人に出会い、仕事の話や体験をしたりして、子どものキャリアの発達につなげています。



今後も、出会いの場を企画しています。人との出会いを大切に、子どものキャリア教育をさらに進めていきます。

～食教育について～

子どもたちが自分の健康を考える上で、身近で考えやすい「食」について。四小では栄養教諭を中心に、食教育を推進しています。給食便り『いただきま〜す』の発行、調理員さんの話を聞く機会を設けること、栄養教諭が調理実習に関わったり食育の授業を実施したりすることなど、子どもたちが食に興味関心を持ち、自身の健康について考えられるように取り組んでいます。

